ミンガラバー こんにちは

Myanmar-Japan Collaboration Project for Fostering Medical Human Resources

NPO法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
〒700-0811
岡山県岡山市北区番町2丁目6番7号
TEL:086-224-0102
URL:http://www.mjcp.or.jp

ミャンマー訪問記

会員　米田　弥寿雄

この度、岡田先生を団長として協会理事の小熊先生、会員の井上、荒木、米田と5人で2009年10月29日から9日間の訪問をして参りました。私のミャンマー訪問は2回目です。

29日は定宿トレーダーズホテルに夜10時頃到着。早速2階でこれも定番の談話室ミーティング。毎晩のことだが、少ない日数を有意義に過ごす為に有効である。

30日はミャンマー保健省医科学研究局訪問。キン・ジョン・チィ局長に、岡田先生は、研究用の品々をお渡しし、又この前のサイクロンで流されたヤンゴン東約70キロにあるチャウタン地区ボウ・ロ・ロク村に建築予定のアー・リン・ヤン（暗闇から射す光明の意味らしい）クリニックの建築費の半分を渡されました。このクリニックは12月に建築を開始し（乾期になるまでは道路が使えない為）、来年4月には完成予定。このお金は、がんで倒れられた方が遺言で遺産の一部を岡田先生に託されたものだそうです。その方の「生前に何か人のためになることをしたい」という思いと子供さんを含めたご家族の思いがあり、その折り偶然に岡田先生からミャンマーについての話を聞かれ、亡くなられる1週間前に笑みと共にクリニックを寄贈することを申し出られたという話です。こういうことは普通にはなかなか無いことなので、改めて感激しました。

次の11月1日はライン・タヤ地区医院、通称下野クリニックを訪問しました。下野先生は医療法人閑谷会の理事長で当会の理事です。クリニックは2年前に寄贈されて居り、職員宿泊舎が完成間近でした。この日はポリオワクチン接種がユニセフの援助で行われて居りました。これからはもっとユニセフや日本のODAも利用させてもらわねばと実感。

11月2日はインレー湖遊覧。朝早く飛行機でヤンゴンを出発。昼前からボートに乗っての遊覧だが、現地の人にはボートは重要な交通手段。湖上のレストランで魚料理に舌鼓。再度舟に乗り込む。ガイド曰く、この湖の出口は無いと。そうなると雨水が貯まるのは良いが、各家庭の廃水や便の処理はどうなっているのかと聞くと、自然浄化との事。そうすると魚の餌は何じゃ、うまさも半減。然し湖には芦を組んで舟にしてその上に野菜類を広大に植えているので浄化も多少はできると思い多少は安心。

湖上にお寺や首長族の居る商店あり、ここには宣伝用に3人居ただけど納得。古式豊かな織物屋や、蓮の芯を縒った糸の織物、その織物屋の織物の残品は全部同行の京都の人が買い上げ、どうもお坊さんが好きなのだと思い納得。その後、民芸品売場を回って湖上ホテルへ。このホテルは1戸建てが木の回廊で繋がっていて、丁度夕陽が沈む前についたので一人でロマンチックに眺め感慨に耽る。食事は食堂へ集まりバイキング。どうも魚料理には手が出ず、豚、鶏肉か野菜類、然し上等の現地ワインがあってみんな御満悦。

▲インレー湖独特の片足操縦と漁法

翌3日、この地方は蝶々が産地と見えて、朝食が終わった頃可愛い娘二人が大きな蝶の羽をつけてお目見え。みんな競って記念撮影。良い気分になって再び舟へ。しばらく行き朝市見学。こんな寂しい所でどうしてこんなに人が集まってくるのか不思議千万。あるはあるは、なんでもある。小坊主が袋を持って廻っている。無言で店の前に立つと品物を入れてもらえる。無言の業である。やはりこの小坊主も、可愛らしいのと、そうでないのとがあり、人情として、どうしても可愛い方に実入りが多いようだ。どこの国でも現実は一緒かな。バスでの空港への途、田舎の部落で着飾って色々な品を捧げ持っている200人位の行列に出くわす。この日は年に1回部落が皆でお釈迦様にお供えする日。最後の列は踊りながら行っている。その列へ加わって踊りのお相伴に預かりその後空路ヤンゴンへ。

4日は京都東ロータリークラブ（RC）が車椅子を20台ミャンマー保健省健康局所属のリハビリテーションセンターへ寄附する一行へ同行。これもRCが岡田先生に相談した所、ヤンゴンで作れば1台1万円で出来るとの情報。日本で調達すれば5，6万円、それに輸送費を加えれば相当の金額になる所が20万円ですむ。RCもホクホク、格安便が取れずビジネス便を使わされたRCメンバーも助かったのでは。大変感謝されながら、我々も贈呈式の後、食事もよばれてご帰還。

▲蝶々娘とワンショット

岡田先生は本当に偉いと皆で話す。昼食はインド人街へ、野菜とインドカレーを食べて日本円で5人200円程。大変美味であった。その後アウンサンマーケットへ。そこで貝のスプーンやフォークを見ると1ヶ3$。その前の土産物屋では義理買いで8$、ホテルでは7$、その後街中の商店へ行くと1$50¢、卸屋へ行くと1$位かな。ここはインド式の商法がまかり通っていて、売ったが相場、買ったが相場であるので、買い物には充分気を付けて下さい。

5日はASCOJAの為に福田康夫元首相がミャンマーへ来られる日。ASCOJAとは18年前福田赳夫元首相が日本へ留学したアセアン10カ国の人々の集まりとして組織したもので、彼らは日本を懐かしんで毎年各国で会議をしている。ミャンマーは今回が初めての開催国になっていた関係で、息子である福田康夫元首相が、それが為にこられたのです。その前夜祭として福田元首相を主賓に晩餐会が市内カンドージ湖畔の船の中で行われました。私達も招待され準正装をして岡田団長の後について行きましたが、何しろこんな正式な晩餐会に出席したことがありませんので、とにかく岡田先生について行きました。まず先にカクテルパーティがあり、正装した要人や貴婦人が集まり色々と話に花が咲いておりましたが、幸いにも我々が前回訪問で知り合った日本大使館付駐在武官が来られ華やいで居ると、福田元首相も到着されパーティが始まりました。私も福田元首相とお話しする最初で最後の機会だと思い、すこし我がNPOのPRをさせて貰い、これからも頑張って下さいとのお言葉を戴き、テレビで見させて貰っているときは難しい人だと思っていましたが、そんな事はなく、気軽に話させて頂きました。

▲福田元首相と宜を通じる

6日は朝からASCOJAの本会議があり、岡田団長以下4人全員全員出席しました。主催者開会の挨拶の後福田元首相の来賓祝辞があり、その後岡田先生の基調講演がありました。その主旨は、日本はODAで先ずハードな部分の援助をし、ソフト面がおざなりにされて居るとの事、当NPOは先ず留学生を引き受けて教育を充分行い、帰国後にその人達が実力を発揮できるのに必要なハードや設備、医療やソフトも提供するというもので本当に血の通った援助であり、日本の援助方法もこうでないと、折角ODAで多額のお金をつかいながらも感謝はその時だけで終わってしまうと言うような事を英語で演説され、我々も誇らしく思え、演説の後は万雷の拍手を頂きました。その後アセアン諸国の代表諸氏の演説がありどこの国も堂々と又日本に留学した事、又それが祖国の発展にこの様に大いに寄与していると話していましたが、我々は帰国の時間が迫って来ましたので後ろ髪を引かれる思いで退場しました。

▲岡田理事長の基調講演

本当に有意義なミャンマー訪問であり援助の本随を学ばせて頂きました。四十の手習いと言いますが、人間幾つになっても未知の世界を切り開き今までに恩になった人々、ならなかった人々へも、ほんの少しでも恩返しして人生を全うしなければならないという事をつくづく感じた旅でした。会員の皆様の益々のご助力を物心共に頂き、又岡田先生には昼も夜も食事のお相伴に預かり有り難うございました。本当に先生の交友の広さ、深さを改めて確認させて頂いた次第です。これからも益々発展する当会になるよう皆様よろしくお願い申し上げます。

※理事長の意向により原文のまま掲載しています。

▲ASCOJA会議場にて記念撮影

ビッグローズで展示

ミャンマーのお菓子、衣装人気!!

2月13．14日に広島県立ふくやま産業交流館「ビッグローズ」（福山市御幸町）で開催された「BUYひろしまフェスティバル」の一環として当NPOの活動とミャンマーの民族資料等の展示を行いました。両日とも多数の来場者があり、特にミャンマーのお菓子は素朴で味わいがあると好評でした。民族衣装やミャンマーの曜日占いを興味深げに見ていく人や活動について質問する人がいたりして大変有意義な展示会になりました。

「研修を終えて」
トゥン・リン

私は保健省健康局に働く病理医です。現在は新ヤンゴン総合病院で働いています。この病院は一名ジャパン病院ともいわれています。それは約25年前に日本政府の援助で建設されたからです。今回は初めての日本訪問であり、外国に滞在するのは2回目です。今回の研修には日本のNPOが旅費、滞在費用、宿舎などの支給、研修施設の確保、研修先への紹介などすべてのことをしてくださいました。

研修期間は10週間で、子宮がんの細胞診研修が主な目的でした。私の研修先は、倉敷芸術科学大学内にある加計細胞病理学センターと岡山の協立病院でした。いずれの施設でも大変よい訓練を受けることが出来ました。

細胞診はミャンマーの病院検査室でも主要な仕事になっています。この研修は自分の仕事においてもより優れたサービスを提供するのにとても役立ちました。他の病院の病理医達が私の得た知識を分かち、持ち帰った本を見せて欲しいと頼んでいました。勿論私はその様にします。私たちの経済の貧困さ、外国支援の希少さなどにより、私の国の病理医が外国で研修する機会は極めて稀です。私たちは知識や資源を共有しなければなりません。

もう一つの嬉しかった経験は日本人の性格に接することが出来たからです。大学においても、病院においても、街中においても、駅でも、公道の上でも、日本人の行う行為において、殆どの日本人は習慣的に他の人の行動しやすさも同時に考えて行動していることです。わたしはこれが高度の文明を持つ国の基礎だと考えます。

最後に、NPO会員の皆様、日本の先生、日本の皆様に私たちを支援下さいまして、有り難うございます。私は日本とミャンマーの社会がこれからも進歩するように祈っております。

▶見学に行った吉備津神社にて

「研修を終えて」
エイ・エイ・ウィン

最初に自己紹介させてください。私はエイ・エイ・ウィン医師です。病理医で下部ミャンマー医学研究局の研究員です。主としては研究に携わっておりますが同じ場所にある「子宮がん検診センター」の業務も行っています。

日本のNPOの支援により、岡田教授とそのグループは医学研究局局長と理事会メンバーと協力して2008年から「子宮がん検診センター」の設立準備を始め、2009年には開設することができました。非常に短期間の内にこの施設は大変評判になりました。検診は無料であり、私たちのサービスも良かったからです。現在のところ週2日検診日があり、この人達のスクリーニングは主としてム・ム・シュエ医師が行っています。彼女はこのNPOの支援で既に岡山で細胞診の研修を済ませた医師です。スクリーニングの人数が増えてきたので、私も彼女を助けていました。しかし、幸いにも私にも彼女と同じように岡山で細胞診の研修をする同じ機会を持つことができました。

この10週間の内7週間は倉敷の芸術科学大学で勉強し、3週間は岡山の協立病院で研修しました。どちらの施設においても子宮がんの研修ばかりではなく他の臓器の細胞診も理論的にも実務的にも勉強することが出来ました。

学問的な内容ばかりではなく、私たちは日本の文化を学び、日本人の習慣にも触れることが出来ました。日本の総てのことを学び、私たちの総ての意見を述べることは10週間の滞在では十分ではありませんが、次のことは言えます。殆どの日本人は熱心に働き、そしてやさしい心を持っています。

最後に私たちが岡山に滞在するのに必要な総てのものを支援してくださったNPO会員の皆様に厚くお礼申し上げます。私たちの知識を増進してくださった日本の先生達にもお礼申し上げます。私たちはこれらの知識を同僚と分かち、仕事において優れたサービスを提供したいと思います。この研修はその意味で私の国にとってもとても役立つものだと言えます。私は更なる支援をお願いし、この良い協力関係が永続的なものであることを希望します。

▶見学に行った吉備津神社にて

「日本で学んだこと」
ソー・ミャ・ウィン

日本・ミャンマー医療人育成協会の紹介による「岡山県海外技術支援プログラム」研修生に選ばれた時には5ヶ月間研修の為に充分時間があると思っていましたが、ミャンマーでは日本に出発できるまでには思いがけない程煩雑な役所仕事があり、実際にヤンゴンを出発できたのは2009年の9月6日の夕方でした。その為、研修期間は4ヶ月しか残っていませんでした。この間、岡田茂名誉教授はミャンマー官庁と研修受入先の岡山大学医学部、岡山県庁国際課との連絡を辛抱強く、親切に続けてくださいました。私は新しい知識、智恵そして自然の美しさに囲まれた新しい生活に心弾ませてヤンゴンを出発しました。岡山では県庁から三輪さん、岡山県国際交流協会の野本さんが暖かく迎えてくださいました。

最初の3日は、岡山の生活に慣れるためのオリエンテーションがあり、交通の決まりだとか電車の乗り方などもわかりました。自転車は貸与されました。それから放射線・核医学の金澤教授と教室のスタッフ、岡田教授、県庁国際課の方々などの紹介をうけました。

9月の10日から岡山日本語センターの先生による日本語研修が始まりました。しかし、全体の研修期間が1ヶ月短くなっており、専門研修は英語で行われるため通常の1ヶ月の日本語研修は私の場合約10日間となりました。19日には健康診断を済ませ、24日の9時からいよいよ核医学の研修開始です。

私の指導医は核医学の佐藤修平先生です。先生は教室のスタッフを紹介下さった後、研修についての様々な注意点を言われました。初日は画像閲覧法と報告書の書き方を勉強しました。それからの毎日は朝の8時から（カンファレンスの時は7時40分から）夕方5時まで核医学放射性薬物学、技術について勉強しました。これらは私の国では勉強する機会が無い内容でした。

10月に入っての生活も核医学イメージング、フィルム閲覧などは、ほぼ同様に進みましたが、特に佐藤先生からは、1.消化器シンチグラフィ、2.肺のシンチグラフィ、3.心臓イメージング、4.神経核医学イメージング、5.リンパ節シンチグラフィなどの講義をうけました。特にヨード131を使う特別室にも出入りを許され、患者ケアなどを学びました。嬉しかったのは核医学イメージングに関する3冊の本を頂いたことです。奥村先生にも多くの放射線技術を学びました。

この間10月2日には、岡山県国際課の行事で、瀬戸大橋見学の後「はじめの一歩」プログラムに参加しました。ここでは何人かの高校生の前でミャンマーについて皆さんに紹介しました。それからカンボジアや中国料理のプログラムがあり、それらの国についての紹介もありました。特に私に印象深かったのは高校生達行っているエイズ問題についてのボランティア活動について聞いたことでした。9日には岡山国際協会主催の歓送迎会に出席しました。翌日は岡山県ビルマ会のビルマ戦線戦死者慰霊祭に出席し、元兵士に出会う機会を持ちました。10月19日には岡山県主催の歓送迎会に参加し、10月25日には国際料理クラブで、スペイン、ロシア、台湾料理を楽しみました。

来岡3ヶ月になる11月になりました。私の技術修練は続き、研修会、国際協力プログラムにも参加しました。終日は朝8時に大学に入り、大体5時半頃仕事は終わります。水曜日は7時40分よりカンファレンスが始まります。この月には新に、非ホジキンリンパ腫のイットリウム90―ゼバリン療法、PET／CT画像の偽陰性と偽陽性像、骨シンチについて佐藤先生より講義をうけ、奥村先生からも多くの技術を学びました。火曜日のカンファレンスでは武田先生からも多くのことを学びました。泌尿器科放射線腫瘍学の片島先生からは前立腺がんのヨード125シード埋め込みの説明を聞きました。ミャンマーでは前立腺がんは多いのでこの知識を他の放射線腫瘍学の医師に教えることが出来ます。

11月2日の国際交流協会の集まりでは、後楽園の美しさを楽しみ、閑谷校を見学して日本の昔の教育システムの勉強をしました。それから備前市伊部の備前焼博物館を訪れ、備前焼の作り方を学びました。帰りは国道2号線と250号線を通りましたが、綺麗な道路でした。また、14日には同じく国際交流協会の取り計らいで、多くの方の前でミャンマーについてのお話しをする機会が有り、嬉しかったです。野本さんに大変感謝します。

4日の夜には岡山プラザホテルでPET／CTカンファレンスがあり、佐藤先生が連れて行ってくださいました。ここでは大変多くの情報を得ることができ、岡山県の様々な病院からの多くの専門家に会うことができました。ミャンマーはまだPET／CTの時代にはなっておりませんが、その時にはこれらの情報が非常に役立つものと考えます。

11月7日には放射線科主催の「外国人医師歓迎会」があり、金沢教授、佐藤先生、多くの専門医、研修医などともゆっくりお話しができ、トルコ、中国からの留学生とこれまでの経験について率直に話し合うことが出来ました。

いよいよ最後の月となる12月です。これまでの研修、国際協力プログラムを続けます。佐藤先生からは、PET／CTの落とし穴、核種と放射線免疫療法の現状、インジウム111とイットリウム90―ゼバリンの標識法、放射線標的療法の講義を受け、奥村先生からはフィルムの読み方、技術を学びました。12月8日には佐藤先生と共に岡山画像診断センター（大供）に行き特にPET／CTのお話しを聞きました。ミャンマー将来のPET／CT時代には大変役立つと思いますが。10日には奥村先生の「PET／CTの落とし穴」というセミナーに出席しました。

12月18日はいよいよ最後の日です。金沢教授からは研修証明証を頂き、放射線科の先生達にお別れをしました。同じ夜、岡山県庁と岡山国際センター主催のクリスマスパーティによばれました。大変な驚きと嬉しかったことには皆さんが私の誕生日を祝ってくださったのです！

この間、4日には、国際交流センターの行事として、吉備津神社の美しく、静かな環境を楽しみ、最上稲荷にも足を伸ばしました。途中、お好み焼きを楽しましました。それから倉敷の大原美術館や宝福寺にも行きました。また、岡田先生には6日シンフォニーホールでのコンサートと16日にはギターコンサートに連れて行って頂き、日本の音楽家の素晴らしい演奏を楽しみました。

いよいよ研修の最終段階になりました。この4ヶ月以上にわたる期間を通じて私を支援下さった方々に御礼を申し上げたいと思います。

最初は岡山大学の岡田名誉教授です。時宜よく密接にミャンマー保健省の事務方、私、岡山県庁との折衝をとって下さいました。滞在中はコンサートとかパーティに誘ってくださいまして大変有り難うございます。

県知事殿、岡山県庁のスタッフの方々にはこの奨学訓練の機会を与えてくださり、色々な段取りをしてくださったことにとても感謝いたしております。特に、県庁国際課のスタッフには私の訓練に対して細かな配慮をしてくださり大変有り難うございます。訓練期間中、三輪さんにはいろんな折衝や事務的な仕事で大変おせわになりました。ジョンさんには翻訳でお世話になりましたし、特に私の誕生日を覚えてくださっており、クリスマスパーティは楽しかったです。

岡山日本語センター（OJC）の日本語の先生達にもお礼申し上げます。親切に、又徹底的に日本語の基礎を教えてくださいました。

岡山大学病院の放射線科は私を核医学分やの客員研究員として受け入れて下さいました。金澤教授におかれましては私の技術的訓練の段取りを総て整えてくださいました。大変有り難うございます。私の直接の指導者である佐藤先生には私の核医学に対する知識を成長させる機会を与えてくださり、私の滞在中の助言と親切さはこの上無いものです。私の上司として大変誇りに思います。奥村先生には先生の得意とするPET／CTの分野、大変興味深いCT，MRIのフィルムレビューでは大変多くの事を教えていただき、助言を頂きました。大変有り難うございました。内科学の武田教授には有益な討論をしていただき、片山、勝井先生には放射線腫瘍学の貴重な経験を分け与えていただきました。放射線医学の先生達、大学院生達との討論は非常に役に立ちました。私の訓練期間中核医学分野のスタッフ、技術員には大変なお世話になりました。長島さんとの討論は大変役に立ち、私がこれまで会った核医学技術員で最も優れた方です。小川さんには親切に翻訳して下さり、沢山助けていただきました。

最後になりますが、大変な大きな感謝は岡山県国際交流協会のスタッフ、特に野本さんには捧げます。彼女は私の滞在中お世話下さり、私の祖国の事を発表する機会を与えてくださいました。